

ドクター
クローズアップ

国立病院機構函館病院歯科口腔外科

三河 洋平



みかわ ようへい

2011年北海道大学歯学部卒業。2016年北海道大学大学院歯学研究科修了。口腔外科認定医。

2011年北海道大学卒後臨床研修センター臨床研修医。2016年北海道大学歯科臨床センター医員、2017年苫小牧市立病院歯科口腔外科医師、2020年北海道大学歯科臨床センター医員、2021年1月国立病院機構函館病院歯科口腔外科に赴任。

歯科口腔外科の「口の痛み・違和感外来」を担当 舌痛症などの歯科心身症の改善を目指した治療

国立病院機構函館病院(加藤元嗣院長)の歯科口腔外科は、慢性的に口の中に痛みや違和感があるのに原因がはつきりしない人のための「口の痛み・違和感外来」を新設した。担当するのは三河洋平医師だ。

北見市生まれの三河医師は函館ラ・サール高等学校から北海道大学歯学部へ入

学。卒業後は北海道大学卒後臨床研修センター臨床研修医となり、同大学大学院歯学研究科口腔病態学講座口腔診断内科学教室に進学した。「大学院では、がんなどの腫瘍を溶解させるアデノウイルスを開発する研究を行いました」。

「当科が行う治療は親知らずなどの抜歯、口腔内にできた悪性を含む腫瘍の摘出や切除、顔面外傷、頸変形症と多岐に渡ります」。

三河医師は「口の中の違和感や不快な症状が続く場合は気軽に受診してほしい」と話をしている。

近年、注目されているのが、がんや心臓疾患の患者に対する周術期口腔ケアだ。手術や放射線化療法の前から歯科医師が口腔ケアを行

うことで、肺炎などの合併症の減少が報告されているなど、口腔ケアを通じて、患者のQOL向上に役立つことが期待されている。

歯科口腔外科は現在、白石剛士医長との2人体制で行っている。

舌のヒリヒリ感や口の中にはネバネバした違和感があるなど、明らかに不快な症状があるのにも関わらず、他院での「異常なし」と診断された人を対象としている

るのが「口の痛み・違和感外来」だ。「不快な症状には実は隠れた原因があることが多い」と三河医師は指摘する。

「入れ歯や被せ物による障害や口内炎や扁平苔癬などの口腔粘膜疾患、金属アレルギー、口腔カンジタ症、骨髓炎や悪性腫瘍などが原因となっていることもあります」。各種検査や口腔内の病変がない場合は歯科心身症の可能性が高い。

「歯科心身症で多いのは舌痛症です。舌の先や縁が強い痛みを感じることもあります」。患者は60歳前後の女性に多い。「歯科心身症は薬物療法や認知行動療法を用いて、症状の改善を目指した治療を行いますが、検査で異常がないことに安心して痛みが軽減することも少なくありません」。